

十周年記念号



No.29 2005年3月15日

発行・特定非営利活動法人 アビリティクラブたすけあい

昭島たすけあいワーカーズ大きなかぶ

代表理事 上田桂子

〒196-0015 昭島市昭和町 3-21-15

TEL&FAX 042-545-0890 E-mail actoo@oak.ocn.jp



設立十周年を迎えることができました

ACT会員になってくださった方々
大きなかぶを利用してくださった方々
いろいろご指導くださった方々
相談にのってくださった方々
行事に参加してくださった方々

多くの方々に育てていただいたことを心より感謝申し上げます

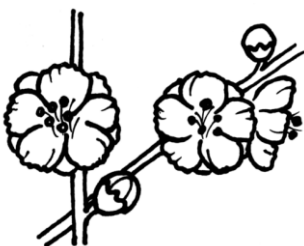
私たちは設立準備会で学習会を重ね、意見交換をしながらメンバー一人ひとりの意思を確認し、十年前の三月、暖かい春の日に設立総会を行ったことを懐かしく思い出します。地域のなかで「助けた助けられる関係を築こう」と、ACTと連携する二十一番目のたすけあいワーカーズ大きなかぶをスタートさせました。今と比べれば時間的には余裕のある毎日でした。その後事務所を移転拡張し、一九九九年にはNPO法人格を取得しましたが、運営のスタイルは今でもワーカーズ・コレクティブのままです。当初十五人だったメンバーも今では五十人となりましたが、相変わらずみんなで会の方向を決めるため、話し合いに時間をかけています。非効率的なようですが、今でもこの事こそが一番大切だと実感しています。

介護保険ができ支援費ができて、福祉も市場経済に巻き込まれていく一方で、市場経済では解決できない人々の関係性が更に重要度をましています。

それに私たちの仕事は単に費用対効果で割り切ることはできず、利用者とサービス提供者の関係性が重視されます。私たちの日々の話し合いの中で、ひとりひとりにそのことが確認されていきます。

また、介護保険の内容が見直され、障害者には障害者支援法が新しくスタートします。今までの十年も、これからの十年も、福祉の世界はどんどん変わっていくようですが、常に設立趣旨書に立ち戻って人づくり・地域づくりを進めていきたいと思っています。これからも頑張つてまいりますので、大きなかぶがもつともつと大きく育つよう皆さん是非応援してください。

代表理事 上田 桂子



十年のあゆみ

- ・たすけあいワーカーズ準備会発足
- ・ニーズ調査

- ・昭島たすけあいワーカーズ

「大きなかぶ」設立

- ・アピール活動(バザー・チラシまき)

- ・一周年記念ACT集会(記念講演会)

- ・救急救命講座(立川防災センター)

- ・昭島の在宅ケアを考える会立ち上げ

- ・ミニ集会(共済自物品説明会・バザー)

- ・昭島福祉シンポジウム2回開催

- ・ACT5周年記念イベント参加

- ・東京ワーカーズ祭り参加(都庁広場)

- ・ACT集会(擬似高齢者体験)

- ・事務所移転

- ・介護保険認定審査会のモデル事業に審査委員として参加

- ・昭島市高齢者ホームヘルパー派遣事業受託

1999年

- ・臨時総会を経てNPO法人取得決定
- ・十二月認証される

NPO法人ACT昭島たすけあいワーカーズ大きなかぶ」としてスタート

- ・指定訪問介護事業所として指定取得

事業所開設

- ・オープンデイ2回開催

- ・昭島市高齢者ホームヘルパー派遣事業受託

- ・ACT集会

「NPOの時代がやって来た」講演会

- ・オープンデイ2回開催

- ・介護保険制度スタート

- ・昭島市介護保険事業推進協議会に事業

従事者枠で委員となる

- ・オープンデイ2回開催

- ・ACT集会(青梅簡保の宿)

- ・他団体主催人材養成講座講師担当

- ・ACT集会(青梅簡保の宿)

- ・オープンデイ2回開催

- ・他団体主催人材養成講座講師担当

- ・昭島市男女共同参画プラン策定記念シン

ポジウムにパネラーとして参加

2002年

- ・保健所精神デイケアにボランティア参加
- ・多摩立川保健所精神保健福祉連絡協議会委員参加

- ・昭島市介護保険推進協議会に委員参加

- ・ACT集会(青梅簡保の宿)

- ・ACT10周年記念イベント参加

- ・オープンデイ2回開催

- ・他団体主催人材養成講座講師担当

- ・ACT集会(青梅簡保の宿)

- ・オープンデイ2回開催

- ・事業所拡張

- ・他団体主催人材養成講座講師担当

- ・支援費事業開始

- ・ワーカーズコレクティブ合同フェア参加

- ・精神ホームヘルプサービス委託事業開始

- ・オープンデイ2回開催

- ・ACT集会(府中郷土の森)

2003年

2004年

思い出あれこれ



広報会議はまず腹ごしらえ



接遇の研修・食工房ゆいの杜にて



陽だまりは暖かい



浜田さん、わーい



たまにはのんびり・協同村にて
つつる温泉にも行きました



掘出し物がいっぱいガレージセール



楽しい催し物が盛りだくさん恒例のオープンデー
みんな上手に作ったね、おいしそう！



バザー さあ買っておくれ、安いよ！



総会 みんな真剣です



第2回ACT集会 高齢者疑似体験講習会を開催



わたしと大きなかぶ



わたしが初めての利用者です

H
M



大きなかぶ事務所
赤いテントが目印です

一年生になったばかりの私は学校から帰ると直ぐ、自宅からおばあちゃんの家まで毎日連れて行ってもらいました。帰宅時母がいな
いことはちよつと不安でしたが、大きなかぶのおばちゃんとおか
ないで歩く道のは楽しく、おかげで寂しさがちよつと紛れたように
思います。

わたしも高校生になりました。
あのときはお世話になり、ありがとうございました。

ACTへの加入申し込みの日

M
T

平成八年十月十九日……

それが今日までの八年四ヶ月と続いた「大きなかぶ」との出会いの日でした。

五月に妻に先立たれ、家事に疎かった私には辛い日々の連続でしたが、亡妻の親友からACTのパンフレットを頂き、気持ちよく働いてくださるヘルパーさんたちのおかげで、知人からも「いつもきれいにしていますね」と感心され喜んでいきます。

出会いから十年

今はケア者です

F
E

大きなかぶとの出会いは約十年前、上の子が幼稚園の年少組で、下の子の出産を控えている時でした。核家族で超高齢出産の私は「もし何かあったら上の子はどうしよう」と不安を持っていました。今のようにファミリーサポートのような支援制度はありませんでした。その状況の中、大きなかぶと出会い目の前が明るくなりました。同じ時期に出産を控えていた大木さんと直ぐ入会しました。幸いなことに大きなかぶにお世話になることはありませんでしたが、私にとって大きなかぶは『お守り』のようでした。
現在私は大きなかぶのメンバーとしてケアをしています。

生きざまの

変われぬままに

去年今年

武敏

大きなかぶさんに期待します

S E

グループホームに入居される多くの方たちは将来は親や兄弟から自立して、地域で単身生活を送りたいと希望します。従って支援はそれを視野に入れて、実現するための課題はどの辺りにあるのかを当事者と考えます。

地域での生活を安定して廻していくためには、生活面の助っ人として、ホームヘルパーは欠かせない社会資源です。ヘルパーとどんな関係作りをするか、どう使いこなしていくか、グループホームにいる間に学びます。

OBたちはそんなプロセスを経て、自信を持ってヘルパーを生活に組み入れています。ヘルパーの訪問は単に生活面でのプラスだけではなく、リハビリ効果もたくさんあることは見逃せません。

大きなかぶさん、益々のご活躍を期待しています。



いつもお世話になり

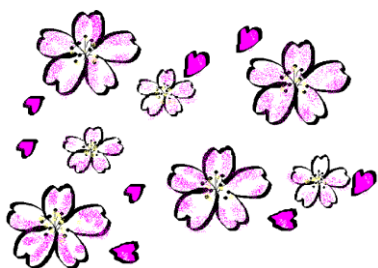
有難うございます

S T

「大きなかぶ」の創立十周年、本当におめでとうございます。一口に十年と申しても、皆様方のご苦労は大変なものであったと推察いたします。おかげさまで大きなかぶの皆様にはの年老いた両親の面倒をみていただき、私たち家族の負担を物心両面で軽くしていただきました。心から感謝申し上げます。

大きなかぶの皆様と出会ったのは八年前、八十三歳でなくなった父親の自宅介護でお世話になったのが始まりでした。父親は寝たきりとなつてから病院をいやがったので、退院してから訪問看護がしばらく続きました。その間父親が亡くなるまで、大きなかぶの皆様には親身になって父親の介護をしていただきました。

母親が一人暮らしとなり、介護保険の申請手続きから、デイサービスや配食サービスの利用手続きなど助けていただいております。



私は海外への長期出張が多く、度々母親を一人にしておりますが、デイサービスへの送り出しなど、大きなかぶの皆様にもいつも見守っていただいておりますので大変心強く思っております。これからもいろいろと助けていただくことになると思います。宜しくお願い致します。

これから十年、二十年と歴史を重ねていけるわけですが、ますますご隆盛ならんことを、心よりお祈り申し上げます。



情報のひろば

福祉最新ニュース

「障害者自立支援法」案の

問題点について

自立生活センター・昭島

Y T

二〇〇〇年から介護保険制度が始まりました。介護保険を見直す中で、二十歳以上の人も保険料を取り、障害者もそこに組み込むという考えが二〇〇三年の一月に出てきました。これは保険料の負担が増えるので経済界からも大きな反対があり、国は見送らざるを得ませんでした。

一方、二〇〇三年四月に「支援制度」という障害者一人一人についての支援を行う制度が始まりました。この制度の長所は、自分で介助を受ける時間が決められ、外出等にも利用が可能で、多くの障害者が利用を始めました。それまでは親が一部負担金を払っていたのですが、それが無くなりこの制度は大きく成長しました。その結果が当初の予算より大きくなり、二〇〇四年には二五〇億円が足りないとい時は予想されました。

赤字の削減で国が考えてきたのは、「グランドデザイン」というものです。支援費は税金で賄われていますが、これを効率化するという目的で出てきたものです。実は次の介護保険の見直しには移行できるようにような思惑見え隠れしています。たとえば利用者は一割を負担しなければならぬ。高齢者と若い障害者の、財産の基盤が全く違うことを無視しています。何十年もかけて築いた財産を持っている高齢者と、障害がある故に働けずに、年金等で暮らしている障害者と一緒にする考えは、全く無謀な事と言わざるを得ません。

また、この制度を使うには市町村で審査会を設け、決定をする書かれています。今までは市役所と障害当事者が、話し合いながら方法を決めてきました。しかし、これが実施されると障害者の生活を知らない人達に、一方的に決められてしまうこととなります。

また、家族に収入があると負担金を払う事が復活してきています。費用が必要だと利用を躊躇してしまい。不自由な生活に戻るといふ恐れがあります。

確かに、二月十日に内閣閣議決定され国会に上程された「障害者自立支援法」案は、障害種別に分けてきた施策の歪みを訂正するという事においては、新たな考え方だと評価はできますが、経費の削減を考えるだけのノーマライゼーションの考え方とは逆行する制度です。この法案の審議は四月から五月になるといわれています。

人間が社会を形成するにあたり、障害者は存在するものです。この記事を読んでみる方も、どうか自分身の事として考えてほしいと思います。



介護保険見直しの現状

二千年にスタートした介護保険制度が大幅な見直しの時期を迎えました。二月八日、介護保険改正案が国会に提出され四月頃から審議が始まります。

この審議に先立ちACTは、昨年末の十二月二十八日、厚生労働大臣に介護保険制度の見直しにあたっての要望書を提出しました。

制度の定着に伴い給付も増え、保険財政は実質赤字とか。そこで今回の見直しは「持続可能な介護保険制度の構築」ということで、給付増に歯止めをかける効率化が最大の課題になっています。

サービス給付費の増加の一因として軽度利用者の広がりが見られています。軽度の人が多く利用しているのが家事代行サービスで、介護予防につながらない。かえって「廃用症候群」を招いているのではないかという見解が厚生労働省にあります。

この見解に対してACTは、単なる家事代行は自立の障害が懸念されるが、日常生活の維持継続のために生活の意欲を喚起する「生活援助」は、最も基本的な介護予防であると考えています。

今回見直しの基本的視点の三本柱は、

- 一、制度の『持続可能性』
- 二、『明るく活力ある超高齢社会』の構築
- 三、社会保障の総合化

・明るく活力ある超高齢社会の構築のために予防重視型システムへの転換が必要ということで介護予防システムの確立と軽度者の給付の見直しが重要な柱とされています。

既存サービスについても生活機能・向上を積極的に目指す観点から、再評価し見直される方向です。今後も国会での審議にあわせて動きをお知らせしていきます

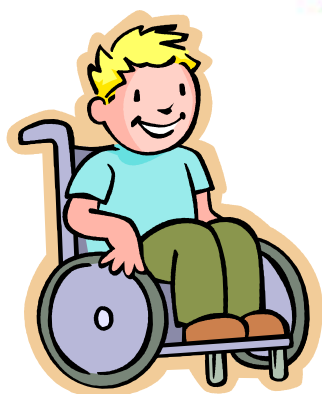
見直し案で提案されている

新しい介護予防サービス

- A、運動器の機能向上→筋力向上・転倒防止
- B、口腔機能向上→肺炎防止等
- C、栄養改善→低栄養状態の改善等

介護予防の目指すもの

「できないこと」を補う生活援助から
「できる可能性のあること」を見つけ、
「現実に行っていること」を増やす自立支援への転換



痴呆症の呼び方が変わりました！

痴呆症という語句のイメージが良くないということで、厚生労働省は「認知症」という名称に改めました。

2005年度は認知症への用語変更の機会をいかして認知症の人への正しい理解と支援を広げていく、「認知症ケア」の普及・推進の年です。



紅葉がとてもきれいでした

ACT集会

12月5日(日) ACT会員の皆様と府中郷土の森・サントリー工場へバスで出かけました。プラネタリウムや古民家を見学するなど楽しい一日を過ごしました。初冬にしては暑いくらいで冷たいビールが心地よかったです。



ビールを3杯以上飲んだのは、だーれ？

オープンディ

3月12日事務所



手品も面白いけど、お話ももっと面白い！



ちょっと遅れたお雛さまパーティ。三味線に合わせて歌う皆さんの姿がはつらつとして素敵でした。

昭島福祉まつり

3月13日あいぽっく



へえ~そうか



ACT紹介ビデオをながして活動をアピールしました。パソコンを自由に使えて子供たちがうれしそうでした。



ボーリング大会 2月5日(土)

ケアメンバーの交流を深めるためにボーリング大会を行いました。日ごろの疲れが飛んでいくぐらいの快音を響かせてお互いに力投しました。よく笑い、よく飛びはね(?) 楽しいひと時を過ごしました。